

## 出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

### 今 期（2013年1－3月）の 概 要

**調査期間** 平成25年4月2日（火）～4月15日（月）

**対象企業** 調査対象企業数30社 回答率30社（回答率100.0%）  
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

#### 概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で△29.6（前期調査△26.9）とやや悪化しましたが、前年同期比では建設業と卸売業の好調が全体を底上げし、△17.9（前期調査△33.3）と3期連続のマイナス幅縮小となりました。来期業況見通しDIでも、今期比で△25.9（前期調査△39.1）と2期連続で回復の見通しとなっています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で△30.0（前期調査△14.3）と、サービス業の不調が大きく響き、マイナス幅が再び拡大しています。前年同期比では△31.0（前期調査△46.2）とマイナス幅が縮小しています。来期売上見通しDIは今期比で△31.0（前期調査△45.8）と弱いながらも売上が回復することが期待されています。

#### 業種別景況調査の主要DI

##### 1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で25.0（前期調査0.0）と改善の動きを示しており、前年同期比においても25.0（前期調査△33.3）とマイナスからプラスに転換しています。今期売上DIは前期比で25.0（前期調査25.0）と同水準で推移し、前年同期比においては50.0（前期調査△66.7）

と急激な回復を示しました。

- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）、売上見通し DI も $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）と、今期の好調の反動を懸念してか、やや落ち込む見通しとなっています。

## 2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比 $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）とやや悪化しましたが、前年同期比は $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）と横ばいで推移しました。売上 DI は前期比 $\Delta 42.9$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）、前年同期比でも $\Delta 71.4$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）と、ともにマイナス幅が拡大しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）、売上見通し DI でも今期比で $\Delta 42.9$ （前期調査 $\Delta 42.9$ ）と、それぞれ同水準で推移することが予測されるなど慎重な判断がなされています。

## 3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $50.0$ （前期調査 $0.0$ ）と2期連続で改善し、前年同期比でも $50.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とV字回復を示しました。売上 DI では、前期比で $100.0$ （前回調査 $0.0$ ）と好調そのものだったようであり、前年同期比でも $100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と急激な伸びを見せました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では $0.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と、2期連続の持ち直し見込み。売上見通し DI では今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $0.0$ ）と再び冷え込む見通しとなっています。

## 4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とわずかに持ち直しましたが、前年同期比では $\Delta 22.2$ （前期調査 $\Delta 14.3$ ）とマイナス幅が拡大しました。売上 DI は、前期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比でも $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 14.3$ ）と悪化の動きが加速しています。「高級・高額品が売れない」影響が結果に表れています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 16.7$ ）、売上見通し DI も $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 16.7$ ）と依然として厳しい状況が続く見通しです。

## 5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で△57.1（前期調査△16.7）、前年同期比でも△42.9（前期調査△33.3）と、ともに4期ぶりの悪化となりました。売上 DI は前期比で△75.0（前期調査△14.3）と急降下しましたが、前年同期比は△50.0（前期調査△71.4）と厳しさが若干和らぎました。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△14.3（前期調査△66.7）、来期売上見通し DI でも今期比0.0（前期調査△85.7）と、ともに悪化に歯止めがかかる見通しとなっています。特に、売上回復への期待が高まっているようです。出雲大社本遷宮の波及効果に期待する声もありましたが、「一時的なものではなく、この先60年に1度の遷宮を伊勢とともにアピールしてほしい」と要望する意見もありました。

## 設備投資動向

### 1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は28.6%（前期調査37.9%）で、「機械・備品」への投資の割合が最も高くなっています。

建設業 実施割合が50.0%で、「車両運搬具」「OA機器」「その他」が同率で並んでいます。

製造業 実施割合が44.4%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。

卸売業 実施はありませんでした。

小売業 実施割合が20.0%で、「建物」「機械・備品」が同率で並んでいます。

サービス業 実施割合が12.5%で、すべて「その他」でした。

### 2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は24.2%（前期調査33.3%）で、「車両運搬具」への投資の割合が最も高くなっています。
建設業	設備投資を計画している割合が40.0%で、「車両運搬具」「OA機器」が同率で並んでいます。
製造業	設備投資を計画している割合が25.0%で、「建物」「車両運搬具」が同率で並んでいます。
卸売業	設備投資を計画している割合が50.0%でした。
小売業	設備投資を計画している割合が30.0%で、「建物」「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。
サービス業	設備投資を計画している企業はありませんでした。

#### 経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」で、58.6%でした。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「大企業（大型店）進出による競争の激化」でした。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%でした。「材料（原材料）等仕入価格の上昇」を問題点にあげる企業も見受けられました。
製造業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、85.7%で8割を超えました。
卸売業	第1位が「単価の低下・上昇難」「その他」が同率で並んでいます。「金利負担の増加」をあげた企業もありました。
小売業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、40.0%でした。「店舗・機械・備品等設備の老朽化」という回答もありました。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、57.1%となっています。第2位は「従業員の確保難」でした。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。